

1990年 初めてのサハリンからの集団一時帰国の写真



提供 日本サハリン協会

満蒙開拓団員



提供 首都圏中国帰国者支援・交流センター



提供 (公財)中国残留孤児援護基金
浜口タカシ撮影

1992年 ユジノサハリンスクで撮影された残留日本人たち



提供 日本サハリン協会



提供 (公財)中国残留孤児援護基金
浜口タカシ撮影

戦後世代が語る 「中国・樺太(サハリン) 残留邦人の体験と労苦」

- ◇定員 40人 *応募多数の場合は抽選
- ◇会場 生涯学習センター 3F 大研修室
- ◇講師 首都圏中国帰国者支援・交流センター

戦後世代の語り部

- ◇参加費 無料
- ◇問合せ

〒260-0045
千葉市中央区弁天3-7-7
千葉市生涯学習センター 学習推進グループ
TEL 043-207-5820
電子メール manabi.kouza@ccllf.jp

申込締切 2/14 (火)必着

2023.

2/26(日)

13:30~15:00

中国残留邦人等/中国・樺太(サハリン)帰国者とは

1945年(昭和20年)当時、旧満州(中国東北部)には開拓団など多くの日本人が居住していましたが、同年8月9日、突然のソ連参戦により、居住地を追われ、逃避行中や収容所において飢餓や伝染病により死亡者が続出するという悲惨な状況が生まれました。

このような混乱の中、肉親と離別して中国の養父母に育てられたり、中国の人の妻になるなどしてやむなく中国にとどまった方々を「中国残留邦人」と呼びます。これらの人達はその後も長年にわたって日本への帰国が叶わず、“残留”せざるを得ませんでした。

また、残留邦人の一部に樺太(サハリン)や旧ソ連本土に残されていた人を「樺太等残留邦人」と称し、合わせて「中国残留邦人等」と呼びます。

中高年となってようやく祖国の土を踏むことができたこれらの人達を「中国・樺太(サハリン)帰国者」と呼んでいます。帰国者の祖国での暮らしは、戦争の傷跡に苦しみ、一緒に帰ってきた家族とともに言葉の壁や文化の違いに苦しむ日々でもありました。

出典:中国帰国者支援・交流センター



旧満州の位置(現在の中国東北部)



出典:中国帰国者支援・交流センター「ご存じですか?中国残留邦人・中国帰国者とは」より

戦後世代の語り部とは



語り部の講話の様子

高齢化する中国・樺太(サハリン)帰国者の忘れ去られようとする歴史の記憶を語り継ぐと、首都圏中国帰国者支援・交流センターの3年間の育成研修に参加し、委嘱を受けた人達です。世代も30代から60代までと様々で帰国者の2、3世も含まれます。

- ◇申込方法 下記の必要事項を明記の上、メールまたは往復はがきでお申込みください。
*メールでお申込み後4日過ぎても受理メールが届かない場合、必ずお問い合わせください。
- ◇必要事項 ①講座名「中国・樺太(サハリン)残留邦人の体験と労苦」
②〒住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号
- ◇問合せ 〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7
千葉市生涯学習センター学習推進グループ
TEL 043-207-5820
電子メール manabi.kouza@ccllf.jp

申込締切
2/14(火)
必着

◆ 講座に参加されるみなさまへ

施設内での新型コロナウイルス感染症予防対策と、以下の点についてご協力ください。

- ①受講前に検温していただき、受講の際マスクを着用してください(未就学児は除く)。事情により、マスクの着用ができない場合は、あらかじめご相談ください。
- ②当日の受付時に検温を実施し、37.5度以上または平熱+1度以上の場合は参加をお断りします。
- ③体調不良や感染が疑われる場合は、参加をご遠慮ください。また、講座をキャンセルされる場合は、担当職員までご連絡ください。